

なかい里山研究会

申請部門	申請区分	申請額
高度化支援	間伐材の利活用促進事業	30.4万

団体概要

設立年月	平成17年12月
会員数	24名
団体予算	平成29年度予算 48.4万円（会費8万、売上金10万、助成金30.4万）
活動内容	中井町の里山の整備・保全活動、間伐材の炭焼き、都市住民を対象とした炭焼き体験教室及びシイタケのホダ木作り教室

申請概要【間伐材の利活用促進事業】

事業内容	<p>活動回数：30回 事業予算：38万円 利用する材…クヌギ、コナラ、杉、竹 量…30m³ 中井町井ノ口地区の森林整備により発生するコナラ、クヌギ、竹などの間伐材の集材・搬出・加工や、炭焼きやホダキ作りの実施、販売 等</p> <p style="text-align: right;">(新規事業)</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事前調査結果

申請要件への適合	適
特記事項	<p>○今年度より間伐材の利活用促進事業の申請を行う。平成28年度までは森林の保全・再生事業、普及啓発・教育事業、資機材の購入での申請を行っていた。</p> <p>○事業実施は適切に行われている。（中間報告書で確認済み）</p> <p>○チェーンソーの使用について聞き取ったところ、コナラ等の原木(針葉樹、雑木、竹等は除く)の玉切りに使用すること。間伐材を160cmに玉切りし、さらに炭用(80cm)と蒔用(40cm)に玉切りする(ホダキは除く)。</p> <p>○炭焼き原木や薪、シイタケ原木に適した太さに割るために、薪割木も使用。</p>

継続事業実施状況 (24年度以降)

【森林】	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度申請
会員数	15人	17人	17人	22人	220人
活動回数	21回	19回	23回	30回	22回
参加者数	延べ173人	延べ189人	延べ253人	延べ313人	延べ240人
整備面積	1.2ha	1.048ha	1.4ha	1.03ha	1.11ha
補助申請額 (補助確定額)	47.7万円	48.6万円	35.7万円	28.1万円	21.4万円
うち資機材	14.3万円 蒸留器、チェーンソー、枝打はしご	15.6万円 卓上丸のこ1台、携帯刈り機1台	8.1万円 資機材格納用コンテナ1個	—	10.4万円 コンプレッサー1台、チェーンソー1台

【普及】	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度申請
活動回数	1回	2回	2回	2回	2回
事業対象者	14人	14人	16人	35人	40人
事業内容	ホダ木作り教室 (炭焼き体験教室参加者無、中止)	ホダ木作り教室	ホダ木作り教室	ホダ木作り教室	ホダ木作り教室
補助申請額 (補助確定額)	1.4万円	4.5万円	3.0万円	1.6万円	6.7万円

過去の事業実施状況 (23年度まで)

【森林】	21年度実績	22年度実績	23年度実績
会員数	18人	20人	15人
活動回数	22回	20回	21回
参加者数	延べ171人	9人/回	延べ126人
整備面積	1.7ha	1.7ha	1ha強
補助確定額	48万円	53.6万円	30万円
うち資機材	26.4万円 チェーンソー、刈払機2台、ローラーコンバア他	23.6万円 運搬車、倉庫	—

【普及】	21年度実績	22年度実績
活動回数	3回	3回
事業対象者	39人	6人
事業内容	炭焼き体験教室 ホダ木作り教室	炭焼き体験教室 ホダ木作り教室
補助確定額	14万円	7万円

事業計画書 【間伐材の利活用促進事業】

団体名	なかい里山研究会
申請部門	<input type="checkbox"/> 市民事業定着支援部門 <input checked="" type="checkbox"/> 市民事業高度化支援部門
事業名	中井町里山再生事業 <input type="checkbox"/> 継続 (昨年度に当該補助金を受けた事業である場合は黒く塗りつぶしてください)
実施期間	2017年4月1日～ 2018年3月31日 (計30回活動)
実施場所※	中井町井ノ口字谷ツ口地区の山林
間伐の内容	材の種類 クヌギ、コナラ、杉、竹 搬出量 30 m ³
参加者数(見込)	会員(23)人 会員外(5)人 計(28)人
資機材購入希望	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(第9号様式に記載のとおり)

※実施場所は、位置図・写真を添付すること。

(1) 事業目的

事業を実施する必要性や意義、同補助金活用事業であることのPR方法などを具体的に記入してください。

中井町井ノ口地区は長年の手入れ不足により荒廃がすすみ、間伐や下草刈りによる保全作業を行っている。その際に出る間伐材は、放置すればさらに荒廃が進むこととなり処理が課題である。そこで、排出された間伐材を持ち出して有効活用することで森林環境の保全に役立てると同時に、その成果物である炭やホダキシイタケ、竹細工などを通して県民に森林保全の必要性を伝える。又、同補助金を活用して活動を行っていることを会員募集チラシに記載するなどPRの工夫をする。

(2) 事業内容

申請事業の具体的内容、実施時期、やり方について、数値を入れるなどして具体的に記入してください。

中井町井ノ口地区の1.33haの森林整備により発生するコナラ、クヌギ、竹などの間伐材の集材・搬出・加工を実施する。搬出した材については、炭焼きやホダキ作りを実施して販売する事で団体の自主財源確保に繋げてゆく。

名称	実施時期・回数	人数	具体的内容・やり方	特記事項
炭焼き	4月～3月8回	60	窯入れ、火入れ、窯出し	毎月
ホダキ作り	4月～3月8回	60	輪切り、薪割り、菌うち	第2金曜日と第4土曜日に定例活動、他に不定期作業
薪作り	4月～3月10回	100	輪切り、薪割り	
竹細工作り	10月～3月4回	30	裁断作業、工作作業	

(3) 水源環境の保全・再生への効果 (アウトカム)

事業を実施することで、水源環境の保全・再生にもたらす効果があるか、現状と目指す姿に触れつつ具体的に記入してください。

従来は間伐後の材処理への対応に苦慮して間伐の推進阻害要因となっていたが、当会の間伐材活用促進策を推進する事により間伐も進み、持続的な森林管理や健全な森林育成などに寄与が出来る。

炭焼きやホダキ、薪、竹細工等多様な成果物の活用や販売により森林を手入れする事の重要性について県民に意識して貰う事が出来、引いては県民全体の水源環境保全への意識底上げに繋がる事が期待できます。炭焼きやホダキ、薪などの販売により団体の財政基盤を強化して自律的な活動を進めることにも寄与します。

(4) これまでの活動実績

直近3年程度の活動内容・回数・参加者等について記入してください。

当事業は、平成21年に始まりここ3年では、炭焼きを15回、薪を30m³、ホダキ600本などの成果物を作っている。その他にも竹細工の制作や、各種の体験教室も実施している。

名称	実施時期・回数	人数	具体的内容・やり方	特記事項
炭焼き	4月～3月 5回	50	原木切断、窯入れ、火入れ 窯出し、袋詰め	丹沢紅葉祭りなどで活用
ホダキ作り	4月～3月 5回	50	原木切断、植菌	

(5) 今後の展開

申請対象年度以降の活動について、部門ごとに下記の視点から記入してください。

- ①市民事業定着支援部門(将来にわたり継続して実施するための工夫。申請事業の今後の広がりや深まりを高める工夫。)
- ②市民事業高度化支援部門(これまでの経験を活かしたスキルアップや自立化に向けた自主財源確保の工夫。申請事業の広がり等の工夫に加え、他分野の活動や他の地域等に与える効果。)

【数年後の目標】

搬出・加工した成果物の販路をさらに広げる努力をして、自主財源を確保し団体の自立化を進めてゆきたい。また、他の団体と協力してのオペレーションを模索してゆきたい。

【目標達成のためのアクション】

個人の伝手での販売先確保だけではなく、幅広い購入層への働きかけを出来るような仕組みも考えたい。その一つの手段として、近隣の団体などのネットワークを利用しようと思う。

(6) 安全面・県民へのPR

申請事業に対する安全面への配慮(講習会の受講、安全装備、保険への加入など)や申請事業の内容や成果を県民に広くPRする方法について記入してください。

【安全面への配慮】 ボランティア保険には全員が加入。刈払機、チェーンソーの使用にあたってはチャップス、安全手袋などの安全装備を着実に実施し、慎重に作業する。

【県民へのPR方法】 地域の情報誌を積極的に活用してPRをおこなう。また、県の水源環境保全・再生施策の事業であることを積極的にPRするため作業場所に掲示板を表示していく。

事業結果報告書

事業名	中井町里山再生事業
団体名称	なかい里山研究会
実施期間	平成 28 年年 4 月 1 日から 平成 29 年 3 月 3 1 日まで
実施場所	中井町井ノ口字鍛冶畑地区の山林
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>森林の保全・再生事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中井町井ノ口の里山1.11haは、放置され荒廃が進んでいる。適切な下刈り・間伐を行い林床に太陽光を取入れ、水源林としての里山を再生する。 2. 間伐した材は、シイタケのホダ木や炭焼きなどに有効活用する。 3. ホダ木や炭焼きの里山の作業に、希望する県民に参加・体験してもらおう。 <p>普及啓発・教育事業</p> <p>中井町里山林の保全・再生事業で整備した間伐材を使用し、シイタケのホダ木づくり教室と炭焼き体験を通し里山林保全・再生事業活動を地域住民および都市住民に紹介し、体験してもらい里山への関心を喚起し、将来の積極的な里山作業への参加を期待する。</p> <p>県の水源環境保全・再生市民事業支援補助金によるボランティアの活動によって、ホダ木と炭焼きの原木が中井町の里山から切り出されていること、またその結果として里山が再生し水源環境の保全に寄与していることを分かりやすく説明する。</p>	

【事業の成果】(結果)

森林の保全・再生事業

荒廃した中井町の里山を適正な間伐および下草刈りを行い保全・再生することによって、水源涵養機能の向上を図る事が出来た。

毎年加入する新会員の皆さんが熱心に作業に参加してくれてたこともあって、定例活動日以外にも間伐作業などを行う事が出来て、延べ342人の参加により、予定通りの計画を全う出来た。

今年度は間伐材などの有効利用を図ることも念頭に作業を進めてきた。その結果、ホダキ、薪、炭など多様な成果物を完成できた。

普及啓発・教育事業

全労済と井ノ口公民館の協力を得て、里山体験教室として参加者に次の実体験を経験してもらい、我々の活動を知ってもらうことができた。

参加者は、15名(全労済)と9名(井ノ口公民館)だった。

1. しいたけホダキの植菌
2. 木炭の窯だし、原木の窯入れ

参加者は、ホダキの植菌を体験してシイタケ栽培に興味を持つとともに、原木が中井町の里山から切り出されていること、またその結果として里山が再生し水源環境の保全に寄与していることを実感してくれた。

また、炭窯の中に入って作業する参加者もいて、汚れをいとわな熱心な態度での参加は、我々主催側を感動させた。

部門	延べ活動日数	延べ参加人数	備考 (整備面積、搬出量等)
森林	30日	342人(会員342人、会外 人)	面積 1.11ha
間伐材	日	人(会員 人、会外 人)	種類 搬出量 m ³
河川・地下水	日	人(会員 人、会外 人)	
その他	日	人(会員 人、会外 人)	
普及啓発	5日	81人(会員57人、会外 24人)	内準備3日
調査研究	日	人(会員 人、会外 人)	

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

- ※ 事業実施状況がわかる写真や作成したチラシ、資料等を添付すること。
- ※ 森林の保全・再生部門は整備面積を、間伐材の利活用促進部門は搬出した材の種類と量を備考欄に記載すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

団体名

なかい里山研究会

市民事業等支援制度に係るアンケート調査票 (H27)

A…概ね達成 B…どちらかと言えば達成 C…どちらかと言えば達成できていない D…達成できていない

1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

評価項目、評価のポイント	評価	具体的な理由や改善点
活動参加者について <input type="radio"/> 参加者数の増加が見られたか <input type="radio"/> 参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりが見られたか	A	地域の情報誌を通じてのPR活動等により、参加者は増加している。 リタイヤ層から現役世代まで幅は広い
事業の実施について <input type="radio"/> 事業実施箇所の広がりが見られたか <input type="radio"/> 活動回数の増加が見られたか <input type="radio"/> 活動内容の高度化が図られたか <input type="radio"/> 事業メニューに広がりや深まりが見られたか	A	補助を受けてチェーンソーと運搬機を購入したことにより、多様な箇所の伐採が可能となり間伐・伐採実施箇所が広がった。 倉庫の購入により、チェーンソーや薪割機などの機器が安全に保管できるようになった。 薪割機の購入で、原木の太さで選別しなくても全ての原木を伐採・活用できるようになり効率よく薪や炭の良質化と増産を実現出来てる
新たな関係性が構築されているか <input type="radio"/> 補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか	B	補助を受けたことにより、炭の販売先や竹の活用先など他の団体との関係性が構築できた
団体の自立につながっているか <input type="radio"/> 活動内容の広がりや深まりにより、会員数の増加が見られたか	B	補助を受けて炭焼きなどの活動内容が充実し、回数も増加したことにより、活動に興味を持ってくれる人が増え、会員が増加した

2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

評価項目	評価	具体的な理由
申請手続きについて	B	申請・認可必要な項目と思う
審査方法について	A	良い方法と思う
補助対象事業について <input type="radio"/> 水源環境の保全・再生に資する事業にもかかわらず、対象外となってしまう事業がないか、等	A	特に有りません
補助対象経費について <input type="radio"/> 活動にあたり必要となる経費が補助対象外となっていないか、等	A	特に有りません
補助額について	A	当会の規模ではちょうど適当と思う
補助期間について	A	期間は妥当と思う
中間報告について	B	中間期までの実績の取り纏めとして適当と思う
実績報告について	B	交通費の実費相当額が個人個人の算出が手間を要し、その事務負担が大きい。 実費をある程度（200円単位など）の区切りで仕切れるようになるのと有り難い

3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

評価項目	評価	具体的な理由
市民事業交会について	B	他の団体との交流は増加している
公開プレゼンテーション(3月開催の2次選考会)について	B	他の団体のプレゼンを拝見することははとても有意義です
県ホームページのイベント情報・活動支援情報等について	B	有意義に活用しています

ネットワークの構築やその他の支援として必要なものを挙げてください。(補助金の交付以外の支援について記載してください。)

4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか

評価項目	評価	具体的な理由と今後の見通し・計画等
活動が継続的に展開されているか		
○中長期的な活動計画があるか(補助終了後の活動計画があるか)	B	会のメンバーが経験を積んで、ある程度の活動見通しを立てられる状況になってきた。
○補助終了後も、活動を継続・発展させていく見通しは立っているか	B	会員のほとんどが継続参加で活動を希望している
継続的に活動するための資金の見通しは立っているか		
○会員等からの会費収入は確保できているか	B	確保出来ている
○製品の販売等による自主財源の確保はできているか	B	販路も拡大してきている
○イベント等を通じた寄付金の確保はできているか	B	出来てきている
○他の補助金の活用による財源の確保はできているか	C	特には無い
○企業のCSR活動等と連携した活動資金の確保はできているか	C	特には無い

5 自由意見

その他、市民事業等支援制度に関してご意見等ございましたら、自由に記入してください(この欄に書ききれない場合は、別紙にご記入ください。)